

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成20年6月29日

【評価実施概要】

事業所番号	2872700493		
法人名	社会福祉法人多可町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームやすらぎの郷		
所在地	(〒 679-1327 ) 兵庫県多可郡多可町加美区市原40-1		
	電話	0795-30-8153	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成20年5月16日	評価確定日	平成20年6月29日

【情報提供票より】 [平成20年4月25日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1ユニット (利用定員…計7人)		
職員数	8人	(常勤6人) (非常勤2人)	/ 常勤換算6.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	地上1階建て建物の1階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金の有・無	有り (200,000円) ←最終月に精算		無し	
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り ( ) 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり		1,200円	

(4) 利用者の概要 (平成20年4月25日 現在)

利用者人数	計6名 … (男性1名) (女性5名)		
要介護1	1名	要介護2	0名
要介護3	5名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均85.3歳 … (最低80歳) (最高93歳)		

(5) 協力医療機関

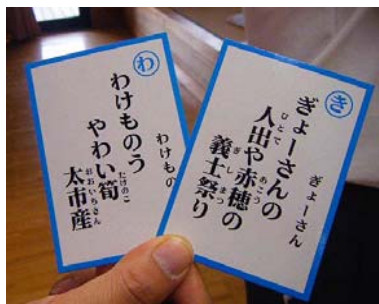
協力医療機関名	中町赤十字病院 西脇市立西脇病院 加西市立加西病院 大山病院 町立松井庄診療所 町立杉原谷診療所 藤田歯科医院 市位歯科医院		
---------	---	--	--

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

“多可町福祉ゾーン”の一角に佇む平屋建のホーム。近くには、総合福祉センター、小規模作業所、診療所、小学校、幼稚園、保育所などがある。共有スペースも、各居室も、広く設計されている。建物の周りをウッドデッキのテラスが囲み、7つの居室には、それぞれミニキッチンと専用のトイレも設置され、のんびり心地良く暮らせる。庭には芝生が広がり、気軽に、敷地内でも植木や花壇を楽しみながら散歩もでき、精神衛生において最適な環境が整っている。利用者職員が地元の伝統和紙(杉原紙)を使った作品を協同制作し福祉展に出展するなど、日々の生活での活力・意欲を持ち続けていただけるよう心掛けている。ドライブのほか、「播州弁かるた取り」など、レクリエーションの機会についても、いろいろ工夫がなされていた。◎添付の資料写真も参照

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①契約書類に関して見直しを行ない、介護予防についても追記がなされた。②天井を改装(吹き抜け部分)することで、リビングの室温も改善された。③介護計画は、3か月毎で見直しをするようになった。④カンファレンスが随時行なわれているが、その記録については未だ整備できていない。⑤事故報告書とヒヤリハット報告書が区別された。⑥運営推進会議は未だ開催されていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者が、原案を作成し、これについて全職員に意見を求めたうえで、まとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) ホーム状況の報告、改善案の検討など議論は、入居者判定委員会において行なっているが、未だ運営推進会議を開催できておらず、同会議の開催をもってこれらを議論するには至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 日常生活の様子は、家族等がホームを訪れた時や、家族が集まる機会(年に2回ほど、設けている)を利用し、管理者や担当職員が、ホームで製作したアルバムなどを見ながら報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 福祉ゾーン内にある、デイサービスセンター・小規模作業所・診療所・保育所など行き来も日々なされており、これらを利用する近隣の方々と触れ合う機会が多い。地中学生のトライやるウィークや小学校の授業の一環として生徒を受け入れるなど、地域との連携も上手く進んでいる。



◎日々のその人らしい暮らし  
「播州弁かるた」を皆で楽しみ…



◎安心と安全を支える支援  
玄関にAEDを設置



◎居心地のよい共用空間づくり  
皆と集う炬燵、1人でゆっくりできるテーブル



◎地域とのつきあい  
地元小学校の子供たちによる手作りカレンダー



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援  
「杉原紙」を使用した利用者作品(福祉展に出展)



▼ホーム外観



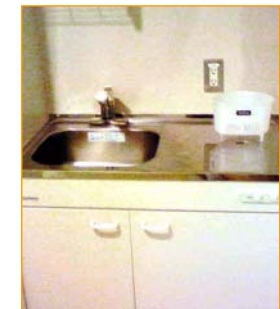
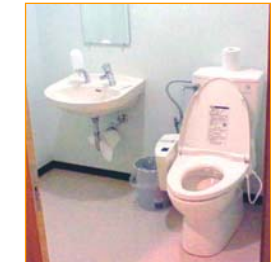
▲ホーム内は広々として視角が広い(左＝キッチン、右＝事務室周り)



▼ホーム前の散歩道



▲福祉ゾーン内の施設  
(上＝デイサービスセンター、下＝幼稚園)



▲居室  
(各部屋に、トイレとミニキッチンを備えている)

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「自立した生活」「地域とのふれあい」「笑顔で自分らしく」との理念を掲げ、職員や家族に明示し、説明している。また、具体的な目標を分かりやすい言葉に置き換えて表現している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域の資源を活用しながら理念の実践に向け、具体的な行動に取り組んでいる。法人が発行する広報誌「ふくしねっと多可」にホームの活動報告を掲載し、広報活動にも努めている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺にはデイサービスセンター・小規模作業所・診療所・保育所などがあり、気軽に行き来している(診療所の待ち時間にホームに遊びに来られる人もいたり、日常的に近隣住民との付き合いが見られる)。福祉祭りや地域の文化祭等の行事にも参加しており、近隣住民と関わる機会が多い。地域ボランティアの受け入れも積極的で、小学校の授業の一環として生徒を受け入れ、中学生のトライやるウィークも受け入れている。共用部には地域子ども会の子も達が手作りしたカレンダーも掛けてある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果の内容は、全職員に回覧することによって周知し、改善に取り組んでいる。評価を受けたことにより、職員の“抱え込み”がなくなり、意識が変化した。今回の自己評価については、管理者が原案を作成し、全職員に意見を求めて作成した。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「運営推進会議」は発足していない。入居者判定委員会での討議が、運営推進会議の討議内容を兼ねている場合もある。	○	運営推進会議を設置し、概ね2か月に1度の開催を望む。また、議事録は利用者家族等にも議送付してほしい。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者判定委員会には市町担当者や法人支部長も入っている。町が設置する診療所の医師がホームを往診しているなど、関係が築けている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等がホームを訪れた時は、管理者や担当職員が利用者家族と面談している。ホームを訪れる機会の少ない家族には、手紙や電話で暮らしぶりや健康状態などの近況報告をしている。家族会はないが、年に2回程度家族が集まる機会を設けている。	○	家族等へ送付を要するものがあるときは、日常生活のスナップショット等も同封するとよい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族が集まる機会に意見を聴き、申し送り時やミーティングなどで職員と話しう機会を設けた上で、迅速な対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際は、引継ぎ期間を設け、柔軟な人員を配置を行なうことにより、利用者へのダメージを最小限に抑えるようにしている。新入職員については馴染みのある職員が間に入りながら信頼関係を築いていっている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課システムがあり、内容に応じて必要と思われる職員には研修に参加してもらっている。その他の研修については案内するものの本人の意思に任せており、研修計画書は作られていない。	○	施設内研修も進めているものの、十分ではないので、今後は、勉強会の実施など職員が学ぶ機会の提供について、計画的に進めてもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある4つのグループホームと互いに行き来する機会を持っており、参考になる事柄を取り入れるなど、情報交換を積極的に行なっている。連絡会を組織するには至っていない。	○	今後は地域密着型サービス事業者間での連絡会の設置などを検討されてはどうか。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には自宅訪問を行ない、利用者や家族の不安に思っている事や求められている事などをじっくり傾聴している。ホーム入居前には併設するデイサービスを利用してもらい、職員との馴染みの関係作りや環境に馴染めるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、何でも話せるような関係づくりに心がけ、祭りや地域の歴史的なことを教えてもらいながら、季節行事やならわし等を一緒に楽しんでいる。家庭菜園を作り季節野菜作りなどを協働している。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事やお茶の時間・余暇活動等の時、一緒に過ごすことで意見や不満を聴く機会を作っている。リビングで皆と一緒に過す、一人で窓際で過す、行事の司会や誕生会の挨拶は元校長先生にしてもらう …など利用者それぞれに合った過し方が見られた。利用者との普段の会話の中から意向を把握している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	心身状況調査票を使用し、当初は入居前に聴き取った情報を参考にした上で介護計画を立てているが、実態に合わせて、これを修正している。一日の流れシートに利用者別に配慮すべき点を記入するなど、介護者に分かりやすくする工夫もみられる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	KOMIチャートによって実態を把握しながら個別ケアプランシートにまとめ、モニタリングをした上で、3か月に1度介護計画を見直している。状態の変化があった場合は随時見直しを行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのある福祉ゾーン内の専門職(特に医師・看護師)との連携がとれている。併設するデイサービスや小規模作業所の催し物にも随時参加することができる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族同行によるかかりつけ医の受診が行なわれており、状況によっては職員が受診に同行することもある。必要に応じて協力医に電話で相談したり、往診を依頼することができる。協力医は、1ヶ月に2度ホームを訪れ、利用者とのコミュニケーションの時間をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は家族や主治医と話し合いをしながら次のケア先を支援している。法人方針としてターミナルケアはしない方向であり、利用者及びその家族にも納得してもらっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねないような対応を行ない、特に声かけや言葉使いに重点を置いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングで「播州弁かるた」をする人、一人で窓際で過す人などそれぞれの好む過し方を見守っている。日常の家事を中心に職員との協働も見られる。利用者の中には常にメモと鉛筆を携帯している人もいる。その方らしい暮らしを支援している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近隣の農協等で仕入れ、食事準備をはじめ後片付けまで利用者と職員が協働している。食事では利用者と職員が同じテーブルにつき、同じものを食べながら楽しく食事をしている。メニューには季節感のあるものを加え、時々利用者「何を食べたいか」を尋ねて献立に取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができ、職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴することができる。職員は、さりげなく見守り支援を行ない、拒否があった時は時間をおいて再度声かけするなどの工夫がみられる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節行事を中心としたレクリエーションがほぼ毎月開かれており、作品を出品したり見学に行ったり、積極的にイベント等に参加している。地元の伝統和紙「杉原紙」を使った作品を利用者全員で作り、福祉展に出品している。個人の趣味の支援も行なっており、活け花をして自室に置いている利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩やドライブ、買物などに出かけ、気分転換を図ったり季節感を味わえるように支援している。住んでいた家の周辺を訪れたり、誕生日には外へ食べに出かけることも多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各職員は利用者の居場所や状況を把握しており、日中、玄関や居室は開放されている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡体制網が整備されているが、定期的な避難訓練は行なわれていない。最近、玄関にAEDを設置し、研修を行なった。	○	計画的な避難訓練計画の立案とともに、地域住民や近隣福祉施設利用者にも呼びかけを行ない、早急な避難訓練を実施してもらいたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの食事摂取量は把握され、健康記録表に記録されているが、カロリー摂取量の数値把握はされていない。水分摂取量は大まかに把握しており、特に水分摂取について注意すべき利用者については、医師と相談しながら水分摂取量を把握している。	○	栄養バランスを把握するため、カロリー摂取量を具体的に数値で把握しておくことが望ましい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節の花がプランターなどに植えられており、リビングの机やカウンターにも、季節の花を生けた花瓶や季節行事の飾り物、利用者の作品などが置かれている。リビングでは馴染みの音楽を流し、壁面にも入居者の作品や絵が掛けられ、落ち着ける空間作りを行なっている。玄関先に椅子を置き、日光浴や外の景色を見ながら会話を楽しむこともできる。視力障害者が安全に移動できるよう動線にはできるだけ障害となる物を置かないように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、本人が使っていたベッドやタンス等、使い慣れた家具や調度品を持ちこんでおり、自分自身の空間作りができています。また、各居室にはオゾン脱臭機が設置されている。		

※  は、重点項目。